

平安朝文学研究会
2026年度 第1回 研究発表会 および
シンポジウム「古筆『狭衣物語』残簡について」

このたび平安朝文学研究会は、通常のように今年度の第1回研究発表会を9月26日に開催するとともに、標記のシンポジウムも同日に開催することといたしました。

会員外の方々のご参加も大いに歓迎いたします。なお、下の説明にも示しましたとおり、ご参加にあたっては、なるべく事前の申込みをお願い申し上げます。

平安朝文学研究会事務局

記

日 時 2026年9月26日(土) 10:00~16:15

会 場 早稲田大学 早稲田キャンパス 14号館1階 101教室

※早稲田キャンパス構内図

<https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2017/06/406310a6d9c77eeaaac5e0228ae04242.pdf>

◎ 研究発表会 (10:00~12:10)

〈10:00~11:00〉

菊池 莉歩 (早稲田大学大学院文学研究科 修士課程)

『在明の別』における女性同士の関係と「家」の論理

『在明の別』において、夫婦関係を結ぶ男装の右大将と対の上について、女性同士の親密性を描いているという指摘がある。本発表ではこれを踏まえ、両者の関係が「家」の論理のもとでいかに成立したかということ、またパワーバランスの非対称性と精神的な紐帯という両面から検討したい。

休 憩 (10分)

〈11:10~12:10〉

高橋 秀子 (十文字学園女子大学)

河原院周辺歌人と〈たち+そふ〉——継承されなかった和歌表現とその意義——

河原院周辺歌人の和歌史的意義は、彼らの和歌表現の開拓やそのグループの外への影響に注目して考えられることが多い。しかし、彼らの中で共有されるに留まった表現からも、彼ら特有の営みを見出すことはできないだろうか。そのような視点での考察の試みとして、本発表では、河原院周辺歌人が開拓したものの外には継承されなかった〈たち+そふ〉という和歌表現に着目する。

◎ シンポジウム「古筆『狭衣物語』残簡について」 (13:00~16:15)

〈趣意〉

平安末から鎌倉極初期かと思される古筆『狭衣物語』(伝源通親筆)がこれまでも報告されていたが、

先般、早稲田大学図書館に 31 枚 65 面が収蔵された。それらは『狭衣物語』巻三の前半三分の一ほどと後半数葉の二筆に分かれるが、物語の古写本としては、最古に近い時期の書写と見なされる。学術的に大変貴重なこの古筆『狭衣物語』の全体像を報告すべく、シンポジウムを開催する。 (新美哲彦)

〈13:00～13:05〉

開会の挨拶（総合司会より）

田淵 句美子（早稲田大学）

報告（前半）〈13:05～13:55〉 ＊以下、報告の題目は仮題です。

新美 哲彦（早稲田大学）

伝久我通親筆『狭衣物語』概観

坂本 彩葉（早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程）

伝久我通親筆『狭衣物語』の本文系統

休憩（10分）

報告（後半）〈14:05～14:55〉

齊藤 鉄也（淑徳大学）

仮名字母から見た伝久我通親筆『狭衣物語』残簡の位置付け

海野 圭介（早稲田大学）

伝久我通親・通具筆『狭衣物語』断簡の伝存状況とその鑑定

休憩（40分）

討議 〈15:35～16:15〉

※シンポジウム開催にあわせて、早稲田大学中央図書館（18 号館）2 階の展示室で古筆『狭衣物語』残簡を中心とした展示がなされる予定です。当日、14:55 から 40 分間の休憩時、もしくは 16:15 の討議終了後にご覧いただければと存じます（17 時に閉館となります）。

◆ 研究発表会・シンポジウムへの事前申込みにに関するお願い

○ 今回はオンライン併用ではなく対面による開催としますが、資料を準備する都合上、参加される方々の人数を把握したいと存じます。おそれいりますが、ご参加にあたってはなるべく事前申込みをお願いいたします。9 月 24 日（木）までに、下記の事務局まで電子メールでお知らせください。その際、ご参加につきまして、研究発表のみ、シンポジウムのみ、あるいはそれらの両方のいずれかを明記してくださるようお願い申し上げます。

＊ただし、事前予約なしであっても、当日は受付をするようにいたします。

○ 会員以外の皆様のご参加も歓迎いたします。なお、お申し込みに際しては、ご所属(もしくは旧所属)を明記してくださるようお願い申し上げます。

お申し込み先 平安朝文学研究会 事務局（陣野英則） E-mail : jinno●waseda.jp

＊上記の「●」を「@」に置き換えてください。

以 上